

自 己 評 価 書

(令和6年度)

令和7年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1
- (3) 学級等の構成
 - 小学部 3学級(複式)
 - 中学部 3学級
 - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(令和6年5月1日)
 - 小学部18人, 中学部18人, 高等部24人
 - 児童生徒数60人
 - 教員数29人(正規教員数)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ① 大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う使命
- ② 大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び教育実践研究等を行う使命
- ③ 地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

<学校教育目標>

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができるよう児童生徒を育成する。

<小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身に付ける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とのかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

<中学部>

- ① こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ② 自他共に大切にできる態度を養う。
- ③ 生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

<高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③ 社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人とのかかわる中で社会性を身に付け、生活を楽しむことができる力を養う。

令和6年度の重点目標及び各学部各校務課の重点課題

鳴門教育大学附属特別支援学校

1 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成、実施及び研究の推進

- ・個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実
- ・特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進
- ・ポジティブ行動支援の推進

〈小学部〉

- ①合わせた指導(日常生活の指導,生活単元学習)を中心に,児童の基本的な生活習慣の技能向上や,遊び(人とのかかわり含む)の充実を図る。
- ②本校ホームページや情報共有アプリ等で,保護者に学習活動の紹介や説明等を行い,教育内容への理解や家庭支援を図る。

〈中学部〉

- ①中学部生徒が「目標に向かって夢中で取り組み,次につなげる学び」(中学部での「主体的に学ぶ姿」の定義)を得られるSTEAMIC教育を生活単元学習を通して実践する。
- ②自分や他者の大切さを認め,行動化していくことを目標とした人権教育年間指導計画を作成し,STEAMIC教育で中学部が目指す「共感」や「協同」する姿とも関連付けながら,授業を実施する。

〈研究課〉

- ①「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指してSTEAMIC教育を継続実施し,さらにI・Cの視点を意識した授業づくりや授業改善を行う。
- ②研究を推進するために,業務の整理とスケジュール管理を行う。

2 学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現

- ・切れ目ない支援と社会に開かれた教育課程の実現

〈高等部〉

- ①学習する題材について,各教科やSTEAMIC教育の各分野等と関連づけながら実施・評価に取り組み,卒業後の生活に必要な力の育成を図る。
- ②卒業後の自立と社会参加に向けて,医療・福祉など関係機関との連携や教員・保護者と情報共有を行い,生徒指導や進路指導の充実を図る。
- ③主体的に学ぶ生徒の育成に向けて,生徒の実態・社会の実情に合わせた持続可能な教育課程の見直しを図る。

〈教務課〉

- ①各教科等の年間指導計画の適切な活用により,授業改善に向けた取組を充実させる。
- ②本実習における成績評価基準の改訂を行う。

〈指導課〉

- ①-1家庭や地域(青年学級)との繋がりのある学校行事を企画・立案・実施する。
- ①-2児童生徒役員選挙を通して主権者教育に取り組む。
- ②-1徳島市・佐那河内村人権教育研究大会(市・村人研大会)の開催に向けて企画・立案・実施する。
- ②-2人権教育と生徒指導、児童生徒会が連携し、「いじめ防止こども委員会」を来年度運営できるように企画内容を検討する。
- ②-3高等部を中心に生徒心得の伝達とともに,児童生徒の実態に応じた指導ができるように教職員の研修を実施する。

3 特別支援教育のセンター的機能のさらなる充実

- ・地域のニーズに即した教育相談,研修等の機会や内容の充実
- ・地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップ

〈発達支援センター・特別支援課〉

- ①校内の特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。

- ②地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。
- ③地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。

4 家庭や地域、関係機関等と連携した安全・安心な教育環境の整備

- ・各種防災訓練の見直しと、危機管理マニュアルの再構築
- ・児童生徒の目線に立った教室等学校施設の点検の徹底

〈総務課〉

- ①危機管理マニュアルの運用および訓練実施を受けての改善を含む、学校安全体制の推進
- ②GIGAスクール構想に基づく、教職員のICT活用指導力の向上およびICTを活用した業務の簡素化

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部
昨年度の評価を踏まえた課題	①小学部教育の充実(STEAMIC教育を関連させた単元づくり) ②ホームページや情報共有アプリなどをより活用した保護者への学習活動の紹介
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び,協働的な学び,主体的な学びの充実
各部・各課の重点課題	①合わせた指導(日常生活の指導,生活単元学習)を中心に,児童の基本的な生活習慣の技能向上や,遊び(人とのかかわり含む)の充実を図る。 ②本校ホームページや情報共有アプリ等で,保護者に学習活動の紹介や説明等を行い,教育内容への理解や家庭支援を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①学部会等で教育活動,学習内容,支援方法等の検討や進捗状況等の確認を年10回以上行う。 ②ホームページ更新や情報共有アプリへの配信等を月1回程度行う。学部懇談または学部通信等で,教育活動の説明等を行い,保護者からの意見や感想を集約する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 実態把握,指導内容や支援の検討,保護者のニーズなどの確認をする。 ①-2 4~2月に授業実践を行う。 ①-3 夏季休業期間や冬季休業期間に中間評価と実施計画の見直し,年度末には総括的評価を行う。 ②-1 保護者の希望や意見収集を行う。 ②-2 月1回程度,学習活動を学部通信や情報共有アプリ等で,紹介や説明をする。

実施状況	①学部会や学部研究会で,小学部児童の支援の方向性や支援方法,授業内容(単元や学習活動,ねらいなど)の検討や進捗状況の確認を10回以上行った。定期的(ほぼ毎週)に開催している学部会で,各学級の児童の様子や支援の状況などの確認や情報共有をし,学部研究では,研究授業のねらいや効果的な活動などの検討や情報共有,進捗状況の確認をした。 ②ホームページ更新や情報共有アプリへで学習活動の様子を配信(各学級20件以上配信),学部通信の発行(アプリでも配信)等を行った。前期に保護者からの希望(情報提供や学習活動の紹介・解説など)をアンケートで聞き取り,後期からの学部通信や学部懇談に希望に関連する内容を取り入れた。			
評価指標の達成度及び成果	①学部会記録,学部研究会資料・記録,公開授業授業研究会資料 ②本校ホームページ(学習活動4件更新),小学部通信(7件),学部懇談(3回),情報共有アプリ(チャンネル:小学部,各学級)			
総合評価 (記号を○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	①学部会記録,学部研究会記録,公開授業研究会資料 ②学部通信,情報共有アプリ,学部懇談資料,ホームページ,アンケート			
次年度の課題	①小学部教育の充実(日常生活の指導や人とのかかわりに関連するもの,STEAMIC教育での効果的な単元や題材の情報共有化)を図る。 ②家庭と連携した学習活動(基本的な生活習慣に関連)の取組を進める。			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部			
昨年度の評価を踏まえた課題	①昨年度研究の成果と課題をいかし、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業作りを進めるための、年間指導計画の計画的な作成と実施 ②生徒の発達段階に応じた、中学部段階に相応しい人権教育の年間指導計画の作成と授業の実施			
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実 *特別支援学校におけるSTEAMIC教育の推進			
各部・各課の重点課題	①中学部生徒が「目標に向かって夢中で取り組み、次につなげる学び」(中学部での「主体的に学ぶ姿」の定義)を得られるSTEAMIC教育を生活単元学習を通して実践する。 ②自分や他者の大切さを認め、行動化していくことを目標とした人権教育年間指導計画を作成し、STEAMIC教育で中学部が目指す「共感」や「協同」する姿とも関連付けながら、授業を実施する。			
重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 年間指導計画の作成や見直しのため、生徒の実態を共有することを目的とした支援会議を、学部所属教員が全員参加のもと前期・後期ともに1回以上実施する。 ①-2 主体性を高めるために効果的であった題材や教具などの情報や学校生活の中で見られたICと思われる場面を共有するための学部研究会を研究課と協力しながら年間5回以上実施する。 ②-1 「生命(いのち)の安全教育」を含めた人権教育年間指導計画を作成する。 ②-2 人権学習において、個々の生徒の発達段階に応じた目標を設定した指導案を作成し、授業を実施する。			
実施計画(手だて・スケジュール等)	①-1 5・9月に支援会議を実施し、各生徒情報や課題等を全教員で共有し、生活単元学習や各教科で教える内容を検討して年間指導計画を作成する。 ①-2 前期・後期ともに2~3回の学部研究会を実施し、情報共有をする中で、学部全体でSTEAMIC教育への理解を深め、教育活動に取り組む。 ②-1 6月に人権教育年間指導計画を作成する。 ②-2 11月の徳島市・佐那河内村人権教育研究大会に向けて指導案を各学級で作成し、目標の達成に向けて計画的に授業を実践する。			
実施状況	①-1 4月の学部懇談後と夏休み明けに全クラスの生徒についての支援会議を設け、学部教員全員で実態把握をすることができた。また、年度の途中で個別の配慮が必要となった生徒については支援会議を開き、授業や日常生活の観察から気がついたことについて意見を出し合い、学校長も参加し、適切な対応について検討することができた。 ①-2 2月までに5回の学部研究会を実施し、中学部で取り組むSTEAMIC教育についての共通理解を図った。 ②-1 「生命(いのち)の安全教育」を含めた人権教育年間指導計画を6月に作成することができた。 ②-2 7月に徳島市・佐那河内村人権教育研究大会のための指導案を各学級で作成し、目標の達成に向けて計画的に授業を実践することができた。			
評価指標の達成度及び成果	①実施計画通りに実施することができた。支援会議で得られた生徒の実態から色々な生活課題を洗い出し、学部研究で作成した「授業計画・単元振り返りシート」を活用しながら、STEAMIC教育を生活単元学習を通して実践することができた。 ②実施計画通りに実施することができた。人に対する肯定的な言葉や感謝の気持ちの表現など、知識と経験を結びつける授業を計画し、実践することができた。			
総合評価(記号を○で囲む)	A B C D 80%以上 70~79% 50~69% 49%以下			
評価根拠	①個別の教育支援計画、学部研究協議録、学部会議録 ②人権教育年間指導計画、徳島市・人権教育指導案(佐那河内村人権教育研究大会)			
次年度の課題	・今年度研究の成果と課題をいかし、STEAMIC教育の視点を取り入れた授業作りをすすめるための年間指導計画の計画的な作成と実施 ・今年度の「働く体験学習」から見えた課題の解決に向けた年間指導計画の作成と授業の実施			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部
昨年度の評価を踏まえた課題	①生徒の個別最適な学びや協働の実践について検討 ②生徒指導及び進路指導の充実 ③教育課程の検討
今年度の重点目標	2 切れ目のない支援と、社会に開かれた教育課程の実現
各部・各課の重点課題	①学習する題材について、各教科やSTEAMIC教育の各分野等と関連づけながら実施・評価に取り組み、卒業後の生活に必要な力の育成を図る。 ②卒業後の自立と社会参加に向けて、医療・福祉など関係機関との連携や教員・保護者と情報共有を行い、生徒指導や進路指導の充実を図る。 ③主体的に学ぶ生徒の育成に向けて、生徒の実態・社会の実情に合わせた持続可能な教育課程の見直しを図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①学部研究で学習の指導や評価の内容及び方法等についての検討を年6回以上行う。 ②生徒の指導方法や実態の共通理解を学部会やケース会、保護者懇談会等を年15回以上行う。 ③時間割を見直し、クラブ活動を週1回、道徳を月1回程度、新設する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4～5月】 ①②実態把握（発達検査・保護者懇談、放課後等デイサービス・相談支援事業所聞き取り） ③教育課程の見直し・新設 【6～8月】 ②進路指導（第Ⅰ期就業体験）、高3進路懇談 ①③授業実践、生徒指導及び進路指導、実態把握（家庭訪問）計画の見直し 【9～2月】 ②進路指導（第Ⅱ期就業体験）、高3進路懇談 ①③授業実践、生徒指導及び進路指導、実態把握（保護者懇談） 【3月】 ①②③総合評価及び次年度の課題の検討 ※年間：必要に応じて、ケース会議開催

実施状況	①学部会や学部研究での会議において、作業学習におけるSTEAMIC教育の各分野の捉えについての話し合いを実施した。4種類の作業学習（紙工・農工・機織り・木工）において、主体的な学びに向かう姿について話し合いを深めた。 ②4月と8月の個人懇談で保護者から教育的ニーズの聞き取り、5月に生徒全員に太田ステージ評価、S-M社会能力検査を実施した。その結果を学部会で情報共有や、ケース会を開催し、生徒指導や進路指導、指導目標につなげた。 ③4月より毎週木曜日6校時にクラブ活動を実施した。3種類（アクティブ、図書・イラスト、インドア）設置し、生徒に対して希望クラブの聞き取りを実施した。4月より月1回木曜日2校時、生徒の実態別に3グループに分け、道徳の授業を実施した。			
評価指標の達成度及び成果	①学部研究5回以上実施し、大学教授からの指導助言を踏まえ高等部教員で協議を重ね、授業改善や授業づくりに取り組んだ ②生徒指導主事や進路指導主事、相談支援事業所と連携し、保護者及び本人のニーズを踏まえ、卒業後の自立と社会参加に向け3回以上ケース会を実施した。 ③クラブ活動の内容や方法について生徒主体で選択決定し、主体的な活動の実践を重ねた。道徳では、学習グループの生徒の興味や関心に沿った視覚的な教材を活用しながら、実際の生活に即した内容について指導できた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①学部研究会記録及び学部会研究についての記録 ②個人懇談記録及び発達検査結果用紙、ケース会議記録、就業体験Ⅰ期・Ⅱ期評価表 ③クラブ希望票及び図書・イラストクラブ作品、道徳の授業における教材			
次年度の課題	・生徒指導や進路指導の充実を図る。 ・主体的に学ぶ生徒の育成のため、授業改善に取り組む。 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	特別支援課・発達支援センター
昨年度の評価を踏まえた課題	①鴨島病院連携事業の運用方法について ②教育相談シートの見直しについて ③夏季公開研修会の開催方法等について
今年度の重点目標	3 地域や徳島県における特別支援教育への貢献度アップのための、センター的機能の充実
各部・各課の重点課題	①校内の特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。 ②地域の多様なニーズに応える相談・支援機能の充実を図る。 ③地域のニーズに応じた情報提供及び研修協力を行う。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1子どもの見取りや保護者に対するカウンセリングについての全体研修会を実施する。 ①-2外部専門家(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)による児童生徒へのコンサルテーションを8回以上実施する。 ②巡回相談員による訪問型及び来校型の教育相談の地域支援を年間100回程度実施する。 ③特別支援教育や進路に関する研修を3回以上開催するとともに、学校園や関係機関などのニーズに応じて研修会講師を複数回務める。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1全体研修の予定 8月19日 ①-2外部専門家の校内来校・校外訪問予定 (校内来校)5月:2回・7月:2回・11月:2回 (STについては日程調整中) (校外訪問)10月:3回・11月:1回 ②③各学校園及び徳島県立総合教育センター特別支援・相談課、徳島市教育研究所、徳島市子ども保育課などとの連携を密にし、地域の教育的ニーズの高い事例について相談支援を行う。

実施状況	①-1全体研修会で子どもの見取りや保護者に対するカウンセリングについての研修を8月19日に実施した。 ①-2外部専門家(理学療法士・作業療法士)による校内支援6回と校外支援4回、合わせて10回実施した。 ②巡回相談員による教育相談を164件(1月末)実施した。 ③特別支援教育や進路等に関する研修を校内で2回、公開研修会を3回開催した。また、学校園や関係機関のニーズに応え、研修会講師を5回務めた。			
評価指標の達成度及び成果	①児童生徒の発達の段階を捉えたり、粗大運動や微細運動を観察したりすることを通して、指導目標の設定や手立ての検討に活かした。また、日々の保護者への対応にも活かした。 ②発達支援センターが所有する教材や書籍の貸出、電話や来校相談に応じた。また、WISC-Vの研修に参加し、教育相談で活用した。 ③徳島県立総合教育センターや市町村教育委員会と連携し、地域へ貢献した。			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	①個別の指導計画、鴨島病院相談シートや事例報告会資料・アンケート ②教育相談実施状況、教育相談先へのアンケート ③教育機関からの派遣依頼文書や研修会アンケート			
次年度の課題	①外部専門家による校内及び校外支援の運用について ②地域のニーズに合わせた夏季公開研修会の内容の検討について ③校内の専門性向上に向けた取組について			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課
昨年度の評価を踏まえた課題	①各教科等の年間指導計画の作成と運用についての検討を行う。 ②本実習における実習生評価基準の改訂を行う。
今年度の重点目標	2 学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現 ・切れ目のない支援と、社会に開かれた教育課程の実現
各部・各課の重点課題	①各教科等の年間指導計画の適切な活用により、授業改善に向けた取組を充実させる。 ②本実習における成績評価基準の改訂を行う。

重点課題に対する具体的な評価指標	①各教科等の年間指導計画の活用状況と授業改善について教員アンケートを実施し、それらの課題を踏まえて改訂版(令和7年度版)を作成し、PDCAサイクルに基づく年間指導計画の活用について提案をまとめる。 ②本実習における成績評価基準の改訂に向けた課内検討を、校内研修(8月1日)までに3回程度検討を行い改訂案を作成し、教育実習検討委員会で協議してまとめ、改訂版を作成する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4～7月】 ①教務課で作成した各教科等の年間指導計画(様式)を周知し、作成する。 ②本実習の成績評価基準について検討・協議を行い、改訂版を作成する。 【8月～1月】 ①②について、教員アンケートを実施し、課題をまとめる。 ②改訂版を校内研修において周知するとともに、本実習において実施する。 【2月～3月】 ①②について、聞き取った課題について課内で再検討し、教育課程検討委員会や教育実習検討委員会で協議して改訂点をまとめ、改訂版を完成させ、その活用について周知する。

実施状況	①-1 各教科等の年間指導計画の新様式を作成し、実施した。 ①-2 作成した新様式や各教科等の年間指導計画について、教員アンケートを実施し、得た課題を踏まえて改訂版(令和7年度版)を作成中である。 ②-1 昨年度の本実習事後アンケート結果等、校内の意見を取り入れながら、教務課内で検討会を行い、教育実習検討委員会で協議し、改訂版を作成した。 ②-2 校内研修にて改訂版を配付・周知すると共に、本実習において実施した。			
評価指標の達成度及び成果	①実施した各教科等の年間指導計画に関する教員アンケート等を基に、改善が求められる部分について教務課会等で協議し、改訂点をまとめた。 ②成績評価基準改訂のための検討会を4回実施した。また、校内研修で改訂版を周知し、本実習において実施した。			
総合評価 (記号を○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①会議録、教員アンケート及び各教科等の年間指導計画の作成と運用についての改訂点のまとめ(教育課程検討委員会資料、令和7年度書式例等) ②成績評価基準改訂版、会議録、教育実習検討委員会および校内研修資料			
次年度の課題	○各教科等年間指導計画の作成と運用について、改訂点の実施状況と評価および改善に向けた取組 ○各学部教育課程の実施状況の確認と、課題の把握と分析			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課
昨年度の評価を踏まえた課題	①3 か年研究の2～3 年目にかけて、研究計画の検討及び研究の深化を目指す。 ②業務の情報整理に努める。
今年度の重点目標	1 個々の障がい特性や発達の状態を考慮した個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びの充実と STEAMIC 教育の推進
各部・各課の重点課題	① 「主体的な学び」に向かう児童生徒の育成を目指して STEAMIC 教育を継続実施し、さらに IC の視点を意識した授業づくりや授業改善を行う。 ② 研究を推進するために、業務の整理とスケジュール管理を行う。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 昨年度の成果と課題を教員間で共通理解し、研究のねらいを明確化する。 ①-2 STEAMIC 教育の知見を取り入れた授業づくりや授業改善を行っていくため、各学部1 回全体授業研究会を実施し、STEAMIC 教育についての研修会を1 回実施する。 ② 学校研究を推進するため、業務を見直し、必要な会議の回数や決定すべき事項と決定する時期等を整理し、スケジュール管理を行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【4月～5月】 ①-1 研究課会、研究運営委員会、学部研究会を通して、令和5年度の研究成果と課題をまとめ、今年度の研究の方向性を決定する。⇒4月中に全体研究会で周知。 ・仮説を立て、ねらいを明確にして教員間で共有する。 【7月～2月】 ①-2 7月12日(金)小学部、7月18日(木)中学部、10月4日(金)高等部で授業研究会を実施。7月31日(火)全体研修会(講師胸組虎胤先生)実施。2月公開授業研究会の実施。PDCA サイクルで授業改善につなげる。 【4月～1月】 ② 研究課会で学校研究推進に向けて、各会議で周知・協議する内容を精査し、会議をスリム化するように努める。

実施状況	①-1 4月の全体研究会に昨年度の研究成果と課題、今年度の研究の方向性を周知した。 ①-2 7月12日(金)小学部,7月18日(木)中学部,10月4日(金)高等部で授業研究会を実施した。7月31日(火)全体研修会(講師胸組虎胤先生)実施。2月1日(土)公開授業研究会を実施した。 ② 研究課会 14 回実施(1月末時点),研究運営会議の時期やあり方について課会で検討した。またデジタルデータの整理を順次行っている。			
評価指標の達成度 及び成果	①-1 昨年度の成果と課題をまとめ,4月の全体研究会において教員間で共通理解を促すことができた。また,研究運営委員会で協議し仮説を立てることで研究のねらいを明確化した。 ①-2 各学部1回全体授業研究会の実施及び STEAMIC 教育についての研修会を1回実施することで STEAMIC 教育の知見を取り入れた授業づくりや授業改善を行った。 ② 課会開催数を昨年度28回から今年度16回(予定・1月時点で14回)に減らしたり,研究運営会議・全体研究会・授業研究会の在り方などを検討したりし,業務改善に努めた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
評価根拠	①-1 全体研究会資料,研究運営委員会資料 ①-2 研究課会資料,研究運営委員会資料,授業研究会資料 ② 研究課会資料			
次年度の 課題	①学校研究最終年度となるため,3年間の研究成果を有意義なかたちで公開すること ②本校の教育課程について研究成果をふまえて検討をしていくこと ③再来年度以降の学校研究のテーマについて集約していくこと			

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課								
昨年度の評価を踏まえた課題	①児童生徒会役員の充実を図りながら、学校行事の計画・実施を行う。 ②人権教育の充実を図りながら、児童生徒の実態に応じた生徒指導に取り組む。								
今年度の重点目標	学校・家庭・地域や関係機関等との連携と社会に開かれた教育課程の実現 ・切れ目のない支援と、社会に開かれた教育課程の実現								
各部・各課の重点課題	①-1家庭や地域（青年学級）との繋がりのある学校行事を企画・立案・実施する。 ①-2児童生徒役員選挙を通して主権者教育に取り組む。 ②-1徳島市・佐那河内村人権教育研究大会（市・村人研大会）の開催に向けて企画・立案・実施する。 ②-2人権教育と生徒指導、児童生徒会が連携し、「いじめ防止こども委員会」を来年度運営できるように企画内容を検討する。 ②-3高等部を中心に生徒心得の伝達とともに、児童生徒の実態に応じた指導ができるように教職員の研修を実施する。								
重点課題に対する具体的な評価指標	①家庭や地域との繋がりのある学校行事の企画・立案・実施をするとともに、児童生徒会役員選挙を通じた主権者教育の充実を図る。 ②人権教育・生徒指導が連携しながら、教育活動の充実を図るとともに、研究大会の実施や教職員の資質向上を目指した研修を行う。								
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1感染症対策緩和に向けて、人数制限の緩和及び来賓や青年学級を招いた行事の企画・立案・実施する。(5月・6月)。 ①-2児童生徒会役員選挙を通して、児童生徒の実態に合わせた投票方法で実施する。(9月・12月) ②-1市・村人研大会に向けて、教職員の研修(5月・7月)及び、児童生徒作品の作成に取り組む。 ②-2「いじめ防止こども委員会」の運営に向けて児童生徒会を中心に活動内容を検討し、本年度中に企画を立案する。 ②-3高等部に生徒心得について講話を実施(4月・10月)するとともに、児童生徒の実態に応じた指導ができるようにスクールカウンセラーと連携した研修会を実施する。(8月)								
実施状況	①-1保護者や青年学級、来賓を招いて運動会を実施した。家族種目として玉入れを行った。 ①-2児童生徒の実態に合わせて投票用紙の記入方法を変更することで、無効票が減少した。 ②-1市・村人研大会に向けて、教職員の研修や児童生徒作品の作成を計画的にすすめ、大会を実施することができた。 ②-2「いじめ防止こども委員会」の運営の仕方について、指導課で検討することができたので、年度末までに企画を立案する。 ②-3高等部に生徒心得について講話を4月には実施、10月は実施できていない。児童生徒の実態に応じた指導ができるようにスクールカウンセラーと連携した研修会を8月に実施した。								
評価指標の達成度及び成果	①家庭や地域との繋がりのある学校行事として企画・立案し、運動会を実施した。アンケートでは9割以上が「良かった」という結果であった。児童生徒会役員選挙を通じた主権者教育の充実を図ることについてもアンケート結果から9割以上が「良かった」という回答だった。 ②市・村人研大会実施後のアンケートでは、9割以上の教員が「良かった」という結果となり、生徒指導が教職員の資質向上を目指した研修では、参加者の全員から「理解できた」という結果となった。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1"> <tr> <td>(A)</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr> <td>80%以上</td><td>70~79%</td><td>50~69%</td><td>49%以下</td></tr> </table>	(A)	B	C	D	80%以上	70~79%	50~69%	49%以下
(A)	B	C	D						
80%以上	70~79%	50~69%	49%以下						
評価根拠	・行事後のアンケート結果(教員及び保護者) ・教職員の研修後のアンケート結果								
次年度の課題	・運動会の家族種目数を増やすなど、より良い関係を築ける計画を立案する。 ・児童生徒会の役職ごとの役割について検討し、役職ごとの仕事を明確化する。 ・人権に関して、教職員研修が人権教育活動に生かすことができるように計画・実施する。 ・高等部へ生徒心得についての講話の実施は、学部の必要性に応じて実施を検討していく。								

令和6年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課
昨年度の評価を踏まえた課題	・危機管理マニュアルの運用開始および訓練等実施後の改善 ・教職員のICT活用指導力の向上およびICT活用による校内業務の簡素化
今年度の重点目標	4 安全・安心な教育環境の整備
各部・各課の重点課題	① 危機管理マニュアルの運用および訓練実施を受けての改善を含む、学校安全体制の推進 ② GIGAスクール構想に基づく、教職員のICT活用指導力の向上およびICTを活用した業務の簡素化

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 学校安全に関する訓練の実施後にアンケートを行い、緊急時対応マニュアルや安全体制の見直しを図る。 ①-2 常備食・ヘルメット・防犯ブザー等の安全設備の点検等を行う。 ②-1 長期休業期間および平常時におけるタブレット端末の家庭への持ち帰りを実施するとともに、Teamsアプリを通して保護者と情報提供を推進する。 ②-2 教員へのICT活用指導力アンケートを年2回実施する。 ②-3 各学部から4事例以上のタブレット活用事例の提供・共有を図る。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	【通年】 ① 各種訓練の実施(年8回)および危機管理マニュアルの改善(～2月) 施設設備の安全点検(毎月/随時) ② Teamsアプリを活用した保護者への情報提供の実施 GIGAスクール推進委員会(年3回) 【4月～7月】 ① 危機管理マニュアル運用に向けての職員会議 学校常備食入れ替え開始 ② 教職員ICT活用指導力アンケート(1回目) 家庭への持ち帰り準備、Wi-Fi接続環境の確認 【8月～12月】 ② ICT活用に関する校内全体研修【講師:海老沢穰先生】 家庭への持ち帰り、学習課題の提供(長期休業期間等) 【1月～3月】 ① 学校安全委員会(本年度の報告および来年度に向けての協議) ② 教職員ICT活用指導力アンケート(2回目)

実施状況	① 不審者対応訓練、地震津波避難訓練等の学校安全に関する訓練を実施し、事後アンケートを受け、マニュアルの改編を行った。常備食の入れ替えや追加、「南海トラフ臨時情報」発表時の対応の確認等の取り組み進めることができた。 ② 8月のICT活用に関する校内研修を実施したことで、タブレットの活用法や指導方法について理解を深めることができた。また、Teamsアプリを使った情報発信、Formsアプリを使ったアンケートなど保護者との情報交換が実施できた。			
評価指標の達成度及び成果	①-1 アンケートを受け、10月に臨時学校安全委員会にて安全対応を確認した。 ①-2 常備食の入れ替え、備蓄品の拡充を実施。毎月の安全点検を行った。 ②-1 長期休業時や平常時のタブレット端末の持ち帰りを実施した。Teamsアプリを活用し、各学級で校外学習や日常の学習の様子を発信できた。 ②-2 2回目のアンケート結果で、ICT活用指導力等の向上が見られた。 ②-3 各学部から4事例以上のタブレット活用事例の発信ができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	①	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	① 学校安全委員会記録、各種訓練記録、学校安全点検表および報告書 ② GIGAスクール構想推進委員会記録、教職員ICT活用指導力アンケート、Teamsアプリ利用状況			
次年度の課題	○ 学校安全対策における地域や周辺施設との連携の促進 ○ 学校教職員の危機管理能力、実践対応力の向上 ○ 教職員のICT活用指導力のさらなる向上			